



銀河の旅


999

日めの夜


by 七陽

そう、私はたしかに
女としてあなたを
求めている...

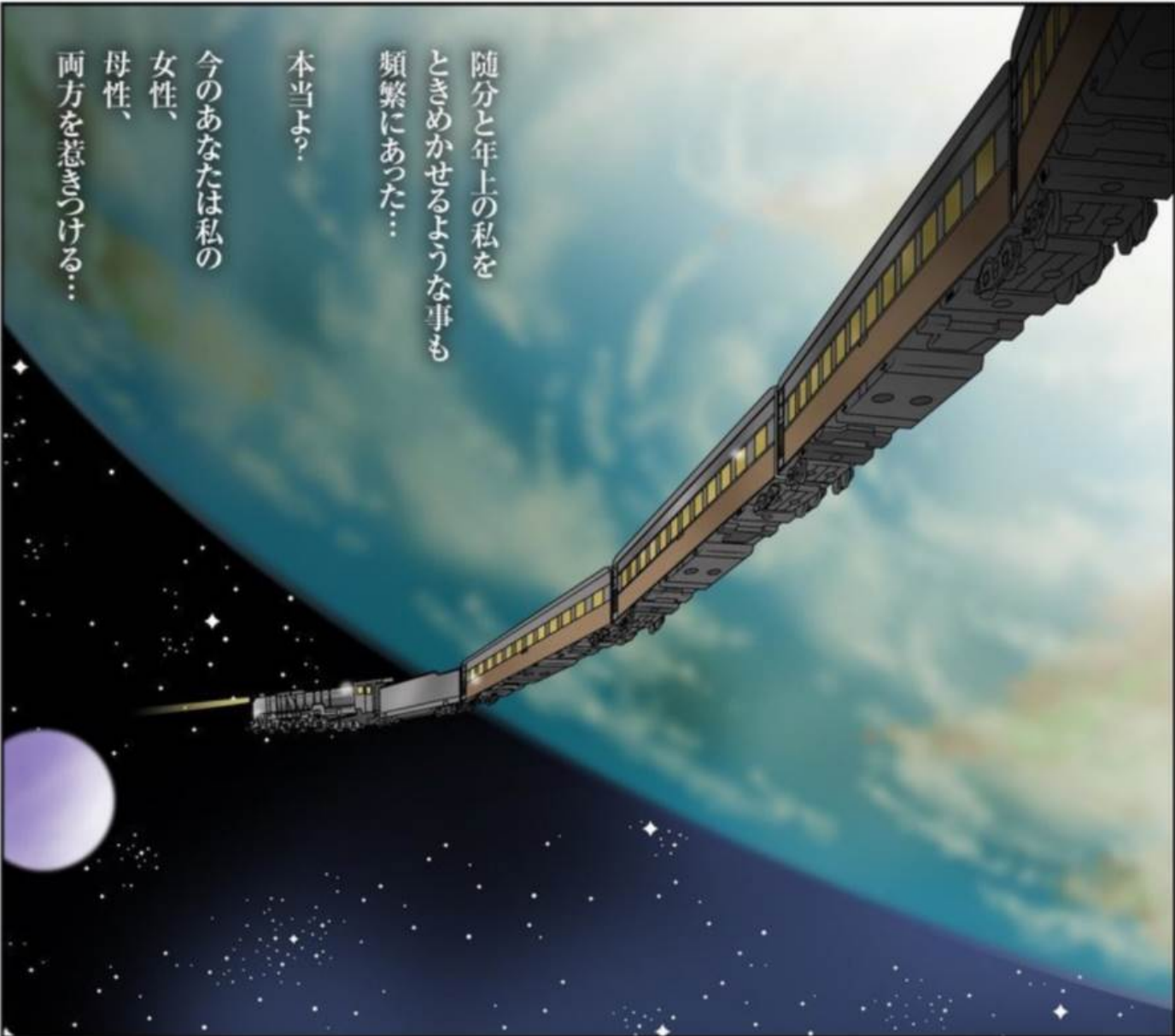




テツロー、
あなたと私の旅も
長いものに
なつたわね…



あなたも地球を
出発した頃と
くらべたら
見違えるほど
男らしく、
逞しくなつた…



随分と年上の私を
ときめかせるような事も
頻繁にあつた…
本当よ？
今のあなたは私の
女性、
母性、
両方を惹きつける…

その日…
私はいつもなら
深く寝入ってる
時間になぜか目を
覚ましたの…

テツロー、
あなたの熱い想いに
反応してしまった
のかもしれない
わね

わたしの膝さき
うづくまり、
息を荒げて
テツロー…あなたの…

あなたの…それを…必死に
こすり上げている姿…
その様子を見た時、
私は激しく動揺してしまっ
たわ…
でも、同時にとても嬉し
かった…
あなたも私にたいして
そんな気持ちでいてくれ
たのね…

はあ

はあ

私はそのまま
寝た振りを
続けた…
だつてテツロー、
あなたはきつと…

その時のあなたの
姿を決して
私には
見られたくは
なかつたでしょう？

でもね…あなたが
恐る恐るまくり
上げる私の
スカートのすそ…

ゆつくりと…
そつとその手で
開かれる私の両膝と
その間を射抜く
ように見つめる
あなたの視線…

そして…あらわにされて
しまった私の股間から
聞こえるあなたの
興奮した吐息…

私は恥ずかしく昂った
気持ちを懸命に
押し隠しながらも、
濡れてしまっていたかもしれない…

はあ

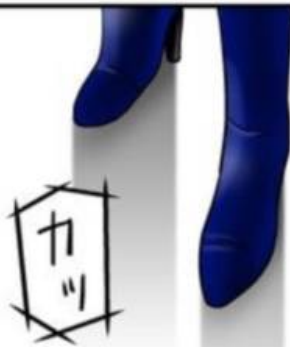
は

そんな夜をすごした翌日、私たちの列車は惑星O・69のホームに滑り込んだ



あなたと旅を初めて999日めのことだったわね…

この星の入管審査はとて特別で

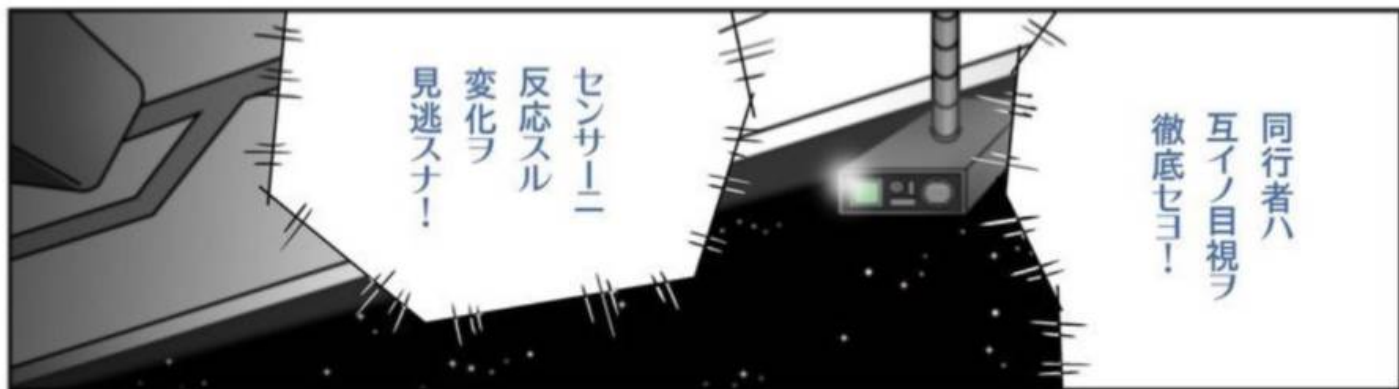


私は昨夜あんな事があつたばかりなのに、またあなたに恥ずかしい姿を見せる事になってしまった…

その特殊なセンサーは、テツロー、あなたの目の前で私のコートを簡単に透過させた…

とても恥ずかしかったわ私…でも…あなたにその姿を見られている事を密かに喜んでました





同行者ハ
互イノ目視ヲ
徹底セヨ!

センサーニ
反応スル
変化ヲ
見逃スナ!



注意ヲ怠リ入国シタ
場合ハ、銃殺刑モ
有リウル!

恥じらいながらも
テツロー、私も
あなたの全身を
くまなく観察させてもらったわ…

仕方の無い事だから…
テツロー、ちゃんと見て…

う、うん…

私の身体を見て
興奮して
くれたのね…
あなたは
あなたのモノを
あんなにも大きく
固く反りかえ
させる程…
テツロー…
ありがとう…

やがてこの
恥ずかしい検査も
無事に終わり、
二人はホテルに
チェックインしたのだ
けれど…

この時、私は本気で
思っていたのよ…
いつそ今晚あなたのベッドへ
行つてしまおうかと…
テツロー、
あなたに抱いてもらいたいと…

もうOKみたいだよ

あ、あのメ…テル

…ええ

けれど、入管検査の時に想ってしまったあの熱い気持ち…
それが私達のその夜の運命を大きく狂わせた

ここは惑星O・69…別名「悪夢の惑星」
夢と悪夢をひっくり返される星…

私の取り返しのつかない過失だったわ
ただ…気を付けていても
あの時のあの想いを封じ込められたか
どうかはわからない…

やあ、久しぶりだね

二人が同時に抱いた夢…
しっかりと把握させてもらったよ



…まさか君があんな
チンチクリンな連れの男に
そんな感情を抱くとはねえ…

この星の統括者は言った

見た目の年齢はテツロー…

あなたとそうは違わない

この星の絶対権力者

彼が君に対して
そう思うのは当然の事
だとしても…だ

彼はからかうように
薄笑いを浮かべながら
そう言った…
そして、嬉しそうな口元から
私に告げられた言葉…

フフ…

これでやっと
君の身体を
僕の好きにできる

今までに何度も
立ち寄った私を
この人は狙って
いたらしい…


でも私は誰かに
恋愛感情や、
抱かれないなんて
想いを持つて
この星に入った事は
なかった…
この夜を除いては…

抱きたいという
あなたが私に
抱いてくれた夢と、
あなたに抱かれないと
想った私の夢…


今夜それを
悪夢に転換される…
ただこの時、そんな
あなたの気持ちをは
つきりと知ることが
できた事は
私を昂揚させた…

シエール

今、自分が
置かれている
この最悪な状況にも
かわらずに…



けれど、それ故に
私は私の身に
これから起こる
この夜の出来事に
耐えられると
思っていた…



僕はとてつもなく
興奮しているよ、
やっつと、やっつと君のその美しさを
隅から隅まで
貪る機会ができたのだからね…

彼の浴びせるいやらしい言葉にも、
彼によつていやらしく蹂躪される肉体的な屈辱にも耐えて、
それをテツロー、あなたに知られることもなく
またこれまでのような旅を続けられると思っていた…

シユレレ

そう…
本当に
置かれている
その時の状況に
気づかされる
までは…

ほら、君の
パートナーにも
十分な悪夢を
見せてあげるよ！

君が彼以外の男…
まあ、僕なんだけど、
その男に無惨に犯され
弄ばれる痴態をね！

目の前の巨大スクリーンには
その時の私の姿を見せつけられて、
激しく泣き叫ぶあなたが
映し出されていた…
私の名を何度も何度も呼びながら…

ん
X
の
☆
!!
!!

そして、そんなあなたが複数の女たちにいやらしく弄ばれている姿…



いえ、
冷静でいられた心を、
この男によつて
激しくかき乱されて
しまったのだろうか…



私は激しく
動揺した



無感情にやり過ぎせる筈と
思っていた この男の…

拙く、荒々しいだけの愛撫に
私の身体はいとも簡単に…
そして恐ろしく敏感に
反応をしてしまった…
テツロー…あなたの眼前で…



A!

テ…ッロ…

私のそんな
姿を見て、
本当に
悲しそうに、
悔しそうに、
ますます激しく
わめき散らす
あなたを見て、
私はさらに…

テッロ…

泣きわめくあなたの声…
涙と鼻水でぐしゃぐしゃに
なったあなたの顔…
それらが私の身体を
さらに昂らせてしまう…

しっかりと私の身体を拘束する触手の冷たい金属感…
私の肌を這いずり回る
彼の熱い舌と、粘った唾液と、ぬるっと湿った手…
そしてテッロ…あなたの視線と
あなたの叫び声…

だめ…!!

AA
A!

ク
ク

無様な私の
その様子も
あなたは
泣きながら
見ていたのよね…

A
…
A

抑えきれない
快感に
震え続ける私を…

テツロー…
あなたも
彼女たちに
何度も射精
させられていた…

何度も何度も
泣きながら…
驚く程大量に…

私は自分が
蹂躞される事よりも
それが悔しかった…
私以外の女に
あんなにも激しく、
私のあなたが…
そう思った…

きっと、あなたが
私に対して
そう思ってくれて
いたように…

ジュ…
ジュ…

ヒリッ

そして…

悪夢はさらに
深まっていく…

彼は文字通り
私を愛し始めた…

きれいだ…本当に
素晴らしい

ん…う

テツロー…
あなたが最も
見たくはない光景を
あなたに
見せつけるように…

私は彼を受け入れた…
そうせざるを得なかった…
彼の私をまさぐり続ける手は
本当に私の全身を
愛おしんだ

そして私の唇を…
舌をむさぼる
彼のぬめった唇…彼の熱い舌…
それらは私の唇を
びしょびしょに濡らし
彼の唾液を乱暴に
私の喉に流し込んだ…

私はその生臭い唾液を
流し込まれるままに
飲み込み続けた…

舌を絡ませ…
喉をならしながら…



N…
…
N

ズル…
ジュル!!

ゼク

テツロー許して…
私はこの男の卑怯で強引な愛欲に
塗りつぶされてしまう…

ん…ふ

ん…ん

いくら心が拒んでも…
すでにこの男に
すっかり支配されてしまった全身が
この愛撫を求めてしまう…

じゅるる



彼の大量の唾液を飲み込まされるたびに…
彼の汗ばんだ手が私の肌を這い回るたびに…
彼の分厚い唇が私の乳首に吸い付き
彼のヌルヌルとした舌が私の乳首をころがすたびに…
彼の指が私のそこを
下着の中で直接責め苛むたびに…
私の身体は跳ね上がり、痙攣が大きくなっていく…

フキゅっ
じゅる!

N…っ!!

グン…

ゼン
ン

そんな姿を…
みつともなく身悶えする
私の姿をあなたは見ているのね…
あられもなく漏れてしまう
私の喘ぎ声をあなたは聞いているのね…
テッロー…



ああ…
見ているのでしょうか？
テツロー…
私は今、最後の下着を
この男に
剥がされる…

ズルル

私は、私の
全てを今、
この男にさらけ
出してしまう…
見ているのでしょうか？
テツロー…

見られたくなかった…
こんな姿を…
テツロー…
あなたただけには
見られたく
なかったのに…

こんな男に
私のすべてを
明け渡して…
こんな男に私のすべてを
好きなように撫で回されて
好きなように舐め回されて…

A
…

ズルル
ズルル



お尻の穴にまで
舌をぬめり込ませ、
その中を
下品な音を
たてて舐め回す
この獣のような
男に…

A:A:!!



なされるがまま、
何度も何度も
イカされ続ける
私を…あなたに
だけは
見られたく
なかった…



でも…でも…
明日の夕方には
出発する
私達の列車が
待っている…
テッロー…

あなたと再び
その列車に乗り込むまで…
私たちはこの夜を耐えなければならぬ…
この悪夢を見続けなければならない…

テッロー…
あなたと再び
二人の旅を
続けるために…

さあ…
ひとつになろう

君ももう欲しく
なってるんだらうっ？
もう君のことは
僕を迎え入れ
たくて…

あ…いや

ズ

こんなにも
蜜を溢れさせ、
あてがった
僕のモノに
ヒクヒクと
吸い付いてくるよっ…

ビ
ビ

A…っ
あ！

彼はとうとう私に
入って来た…
小さな身体にそぐわない
大きさと固さで…
テッロー…あなたじゃなく
……彼が…

A
A…

ズ
ぶ
ぶ
う

見ているのでしょうか？
…テツロー

彼を上に乗せて、
彼の下で
彼を迎え入れて…
そして彼の腕の中で
喘ぎ乱れる
今のこの私の痴態を…



見ているのでしょうか？
彼のはちきれそうに
固く膨らんだものを
膣の中に激しく
打ちつけられて
乱暴に擦り付けられて
何度も奴隷のように
絶頂へと引きずり
連れ行かれる
私を……テツロー……



メス犬のようにお尻を持ち上げられ、
子宮の一番奥にまで
彼の熱いものをねじり込まれて…
そこに彼の精液を大量に吐き出されて…
その快感にうち震える私を…

んあ…あ…う

んA…!!



飲み込みきれずに、
溢れ出す彼の精液を
そこからだらしなく
滴らせながら、お尻をみっともなく
上下にヒクつかせる私を…

どろっ

A…

そのたびに…

ぐんぐん…!

彼が満足そうに私の中に
射精するたびに、
髪を掴まれ彼の精液と私の蜜で
ドロドロになった彼のものを
口できれいにさせられる私を…
そして…そのたびに
彼におねだりをするように
彼のものにすがりつき、おいしそうに
丁寧におしゃぶりをする私を…

そう…

N : Fu

この夜の私は
完全に彼の
メス奴隷…
見ているのでしょうか？
…テツロー…
彼の精液を
もったいなさそうに
飲み干す私を…

A : A

それでも私は彼を欲しがった…
彼が望むのなら、何度でも彼に身を委ね
身体を開き続けた…

私の肌は彼に、もっと撫でられることを望み
私の子宮は彼に、もっと来て欲しがった…

テツロー…私の好きなあなたではなく、
彼を私は求めていた…

私を想って泣きじゃくる
あなたが見ているのに…

私のために
涙を溢れさせる
あなた…

私への想いを
溢れさせる
あなたを薄目で
みつめながら、
私はますます
高く…深く…
気持ちを上らせ、
身体を沈めさせた…

テッロー…

A…A…

見て…
この人に犯される私を…
犯されながらこの人に夢中ですがみつく私を…
この人の種をむさぼり飲み込み続ける私を…

…ーテル！ ああ…
凄く締め付けた

私も見ているから…
あなた以外の男に犯される私に欲情し…
私以外の女に種を放出し続ける
あなたを見ているから…



好きよ…

好き…テツロー…

ね
う
う
う
う



けれどあなたを想うほど…
私は今…この人に
堕ちていく…

ごめんなさい…テツロー……



こんな私だけれど…
あなたはまた
一緒に旅をして
くれるのかしら…

N…っ



あなた以外の男に
溺れ、夢中ですがりついた
愚かな女と…テツロー…

おお…凄…凄…凄…よ…
君の身体は本当に
銀河でも最高レベルだ…

A…っ
…A!

僕のモノをそんなに
気に入ってくれたのかい？
こんなにヒクヒクと
吸い付いて…君の中…
奥へ奥へと連れて行くよ…

…っ…っ…っ…
…っ…っ…っ…
…っ…っ…っ…

だからまた…
行きましょう…一緒に…

あなたと私で…



旅を続け
ましょう…

あ…テツ…口…

ん…すごい…わ
…テツロー…

昨日までとは
全く違う…
最も深くて
神秘的な…



あ……っ

終着駅のない、男と女の旅…

銀河の旅 **999** 日めの夜

by shichiyou 2015 10

END